

居合雑記メモ

●鯉口の補修 2019.07.03

居合刀の鯉口が甘くなってきたので補修することにした。

経木（きょうぎ）を幅2mm長さ8mm厚さ0.3mm程度に紙やすりやカッターナイフで整え、ボンドを付けて鯉口の下部に貼り付け固定（写真赤丸部）して完了。経木は鈴虫の止まり木として市販されているものを使ったが、16×9cmが3枚入りでこれは一生補修に使える分の量である（笑い）。



●膝サポーターの留めを修復 2019.06.03

膝サポーターの留めが甘くなってきた。稽古をしている最中にずれてきたりするのでやりにくい。本体自体はまだまだいけるので買い換えるには忍びない。。そこで100均でマジックテープを購入し、留めの部分を修復することにした。接着タイプと縫い付けタイプがあるが、縫い付けの方を購入。5×15cmサイズが2セット入っている。

ループ側（メス側）は特に問題がないのでフック側（オス側）のテープを5×7.5cmのサイズに2分割し、針と糸で縫い付けることに。片足分で上下2箇所、合計4箇所の縫い付け作業。

ミシンが得意な方ならあっという間に縫い付け完了すると思うが、小生は手縫いで挑戦。途中で糸がもつれたり、針穴から糸が飛び出したりといろいろなアクシデントに見舞われつつも約1時間余りでなんとか作業を終了。留めは完全に修復できた。



●鳥獣戯画と柔術 2019.03.10

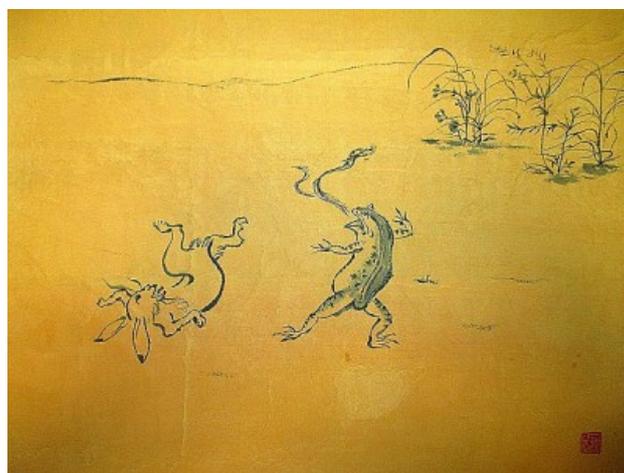
昔、墨絵で遊んでいた時に描いた鳥獣戯画の習作です。いろいろモノを整理していた時にできました。

黄色の顔料を膠で溶いて紙面一面に刷毛で塗り、乾いてから筆で一気書き込んだことを思い出します。

ところで、国際水月塾武術協会のBlogに「鳥獣戯画の投げ技描写」というタイトルで

「中世だから題材となっている投げ技は相撲のものであろう。しかし、そのスタイルが柔術そのままなのである。投げた蛙の足構え、特に両足の爪先がきれいに前後を向いている。そして受身をとる兔。左手で後頭部を護る様子がわかり、顔をしっかりと起こしている。見事な表現である。」

と書かれています。やはり見る方が見れば深い見方ができるのだなあ～と感心。Originalの戯画はネットで見られますので、いろいろ想像を膨らませるのも面白いですね。



●鞘割れを修理しました 2019.03.06

愛刀の鞘割れを修理しました。

鯉口付近の鞘割れをボンドで接着して補修していましたが、今回 100 均で手芸用の糸を購入し、鞘にきつく巻き上げ、その上からヘラでボンドを均一に塗りつけて完全(?)に補修しました。材料費は糸と手芸用ボンドの 200 円ポッキリ。ボンドは乾いた後透明になるので具合がいいですね。あとは黒の艶なしスプレーを噴きかければ完璧ですが、いま手元にはないのでそれはまた後日やることに。

